

令和元年度

富山県訪問看護ステーション サポート事業報告

令和2年3月20日

もみじ訪問看護ステーション

増田 千春

事業目的

- 今後、増大・多様化する在宅医療ニーズに対応するため、「訪問看護サポートステーション」を医療圏単位で選定し、訪問看護職員を対象とした実践的研究等や管理者の相談対応、情報交換会等を開催することで、訪問看護職員の資質の向上及びネットワークの構築を図り、訪問看護サービスの向上を目指す。

応募要件

必須要件

- ア 介護保険法第41条第1項本文の指定を受けた事業所である
- イ 指定を受けようとする訪問看護ステーションが富山県内にある
- ウ 実地検査等において、本事業実施の妨げとなる重大な指導等を受け、改善されていないと認められている訪問看護ステーションでないこと

推奨要件

- 届け出状況
- 認定看護師等在籍状況
- 研修講師等の状況

どのような相談対応が可能か、ステーションの特徴などを記載

自由記載

令和元年度訪問看護ステーションサポート事業所

- ・ 新川 朝日町在宅介護支援センター訪問看護ステーション
- ・ 富山 光風会訪問看護ステーション
富山赤十字訪問看護ステーション
- ・ 高岡 もみじ訪問看護ステーション
- ・ 砺波 南砺市訪問看護ステーション

令和元年度 富山県訪問看護ステーションサポート事業

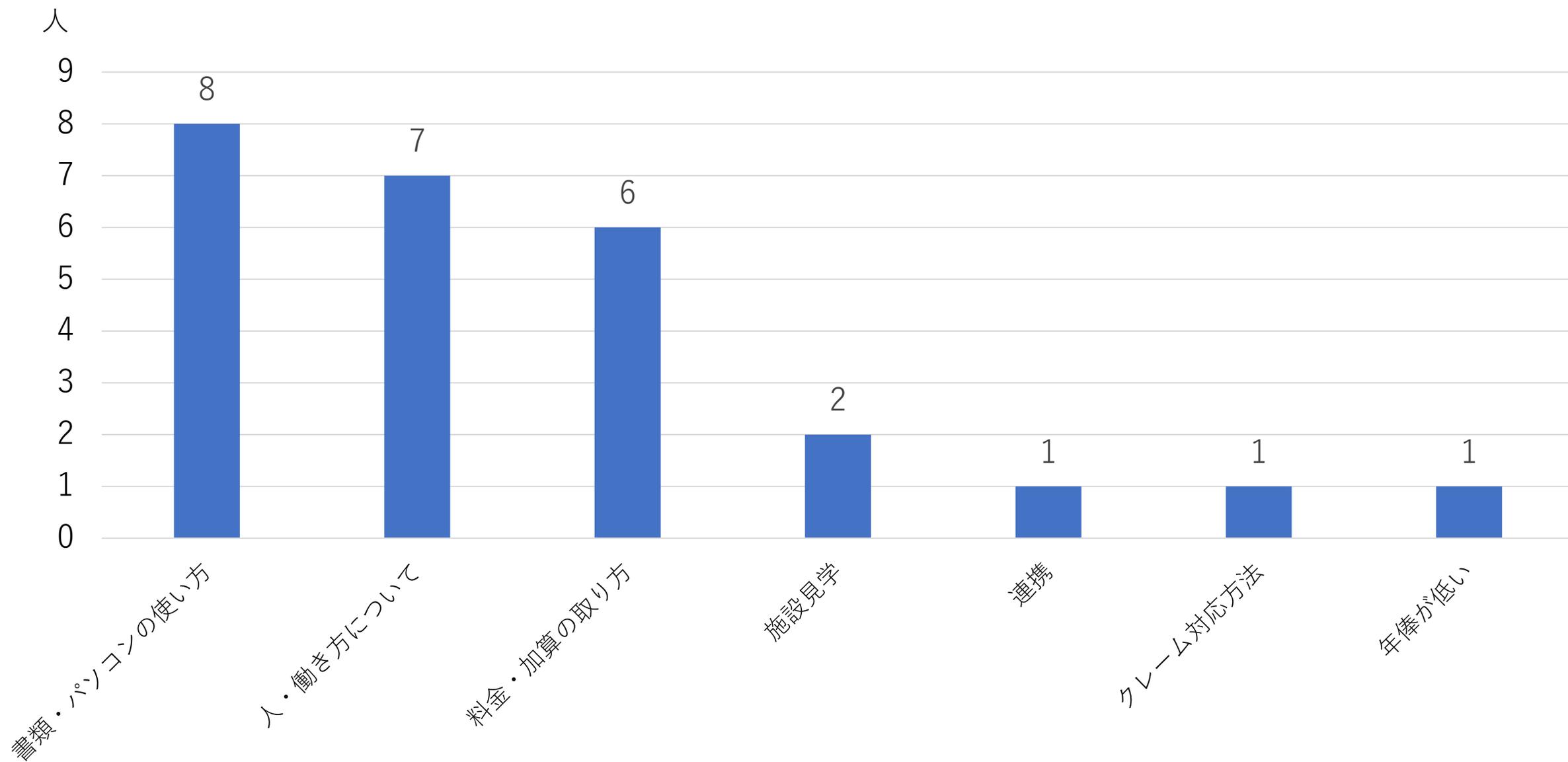
もみじ訪問看護ステーション

サポート内容	実施日	場所・連絡先	時間	内容
1. 相談	月曜日 木曜日	もみじ訪問看護 ステーション	17時以降	困っている事や心配な事
2. 同行訪問	随時	もみじ訪問看護 ステーション		人工呼吸器・気管切開・I V H・ポート・酸素吸入・留置バルーン・胃瘻造 設・ストーマ管理・ウロストミー管理・インスリン注射・褥瘡処置・内服管 理・足浴・足のマッサージ・リハビリ・入浴介助・新生児訪問・精神科患者訪 問・難病・癌末期・独り暮らしの方・アルコール依存症の方
3. 研修会				対象：高岡圏内の訪問看護ステーション協議会会員 目的：看護理論に基づいた看護実践と成果の可視化やネットワークの構築を 図り、訪問看護サービスの向上をめざす。 方法： 1. グループワーク（現場での困っていることを共有できる場になる。） 2. KOMIチャートシステムが理解でき、これを用いて、看護実践ができる。
	7/24(水)	厚生連高岡病院	18:30～20:00	第1回 ☆訪問看護の可視化を目指して -契約時に何をしてくれるか？と聞かれたら- ☆高岡圏内訪問看護ステーション情報交換会
	9/24(火)	厚生連高岡病院	18:30～20:00	第2回 ☆訪問看護の可視化を目指して-看護サマリーを書いていますか？- ☆高岡圏内訪問看護ステーション情報交換会
	11/7(木)	厚生連高岡病院	18:30～20:00	第3回 ☆訪問看護の可視化を目指して
	1/22(水)	厚生連高岡病院	18:30～20:00	第4回 ☆訪問看護の可視化を目指して
	2/7(金)	C訪問看護ST	18:30～20:00	第5回 ☆事例検討会 (KOMIチャートを活用して)

令和元年度 富山県訪問看護ステーションサポート事業実施状況

事業内容		総数	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	相談	16件	3	1	0	1	5	6	0	0	0
2	同行訪問	2件	0	0	0	0	0	2	0	0	0
3	研修会 情報交換会	5回	1回 (7/24)		1回 (9/24)		1回 (11/7)		1回 (1/22)	1回 (2/7)	
		延84人	16人		17人		22人		25人	4人	
	ステーション 数	延40カ所 ○19カ所 (参加回数1回以上) ◎8カ所 (参加回数2回以上)	8カ所		10カ所		10カ所		10カ所	2カ所	
4	サポート事業 連絡会議 報告会	2回				10/2					20日 予定

1-1 個別相談内容



1-2 個別相談の結果・考察

- 相談ステーションは13件であった。直接相談された件数は2件で、残り11件はサポートステーション側から電話を行った。
- 相談内容別総数は26件であった。内容別で最も多かったのは「書類(訪問看護指示書や実施指導の受け方など)やパソコン活用法など」が8件であった。次いで「人・働き方など」で7件。3番目は「料金や加算の取り方」6件であった。
- サポート事業者側から電話をして、「困ったことはありませんか？」と問いかけることで、相談件数が多くなった。積極的な関わりが必要であると感じた。
- サービス付高齢者住宅併設の訪問看護ステーションが多く、経営者の方針に沿った働き方が期待されている事で、住み慣れた家での生活を支える支援から、柔軟な思考が必要であると感じた。

2-1 同行訪問実施状況

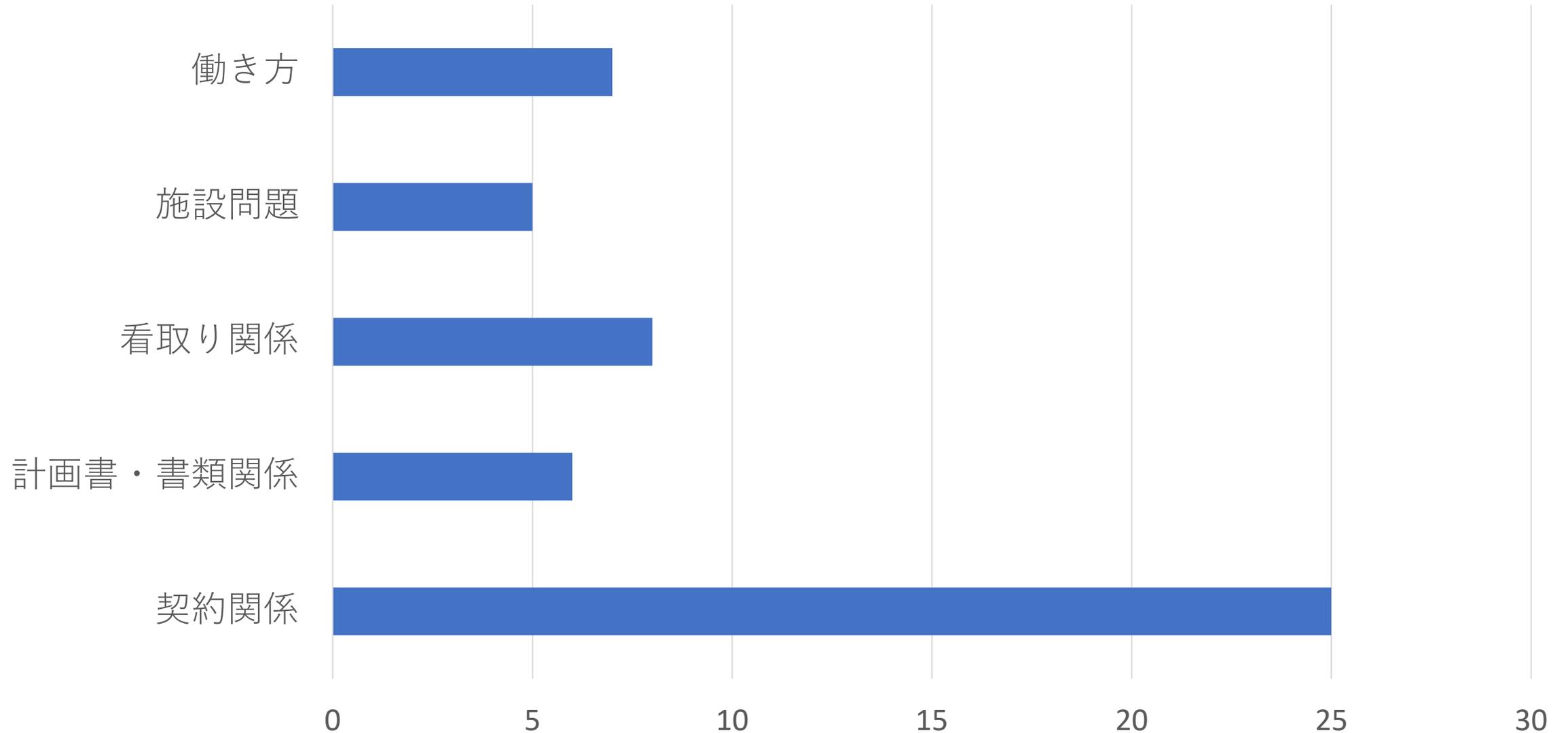
事例A：女性、80歳代、肥大型心筋症・認知症、要介護4

事例B：男性、70歳代、ALS患者・気切・胃ろう、要介護2

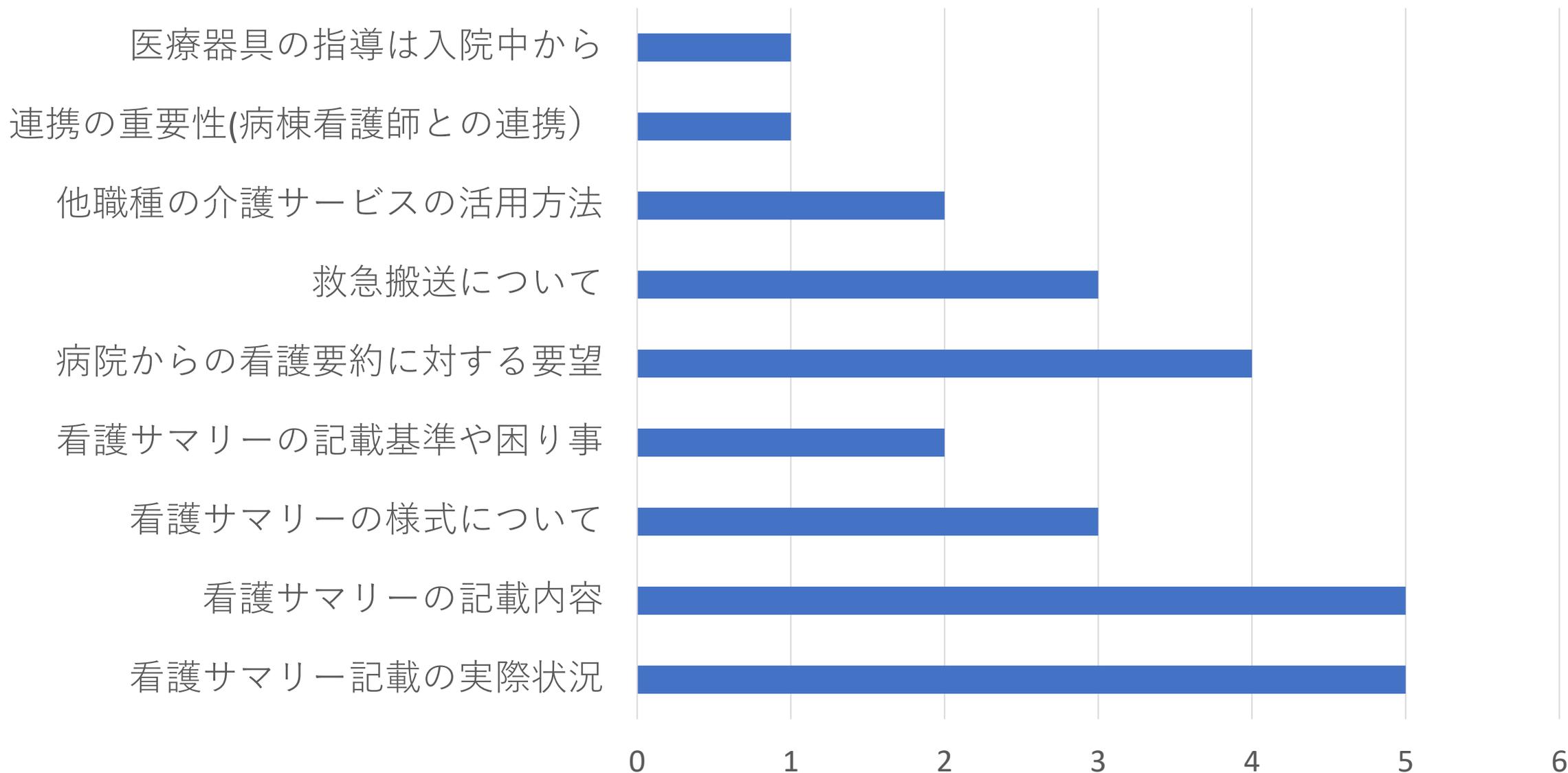
〈考察・課題〉

- ・ 同行訪問は12月で、件数は2件。
- ・ 実施看護師は1人であった。
- ・ 認知症患者さんとのコミュニケーション技術や医療処置の多い療養者さんへの同行訪問で、病院や施設では得ることができない家庭生活の場での看護を体験していただきました。心身のケアのみではなく、経済面での配慮の必要性を学ぶことができていた。

3-1 第1回研修会・情報交換会内容



3-2 第2回研修会・情報交換会内容



3-3 第3回研修会

テーマ 訪問看護の可視化を目指して
「KOMIの認知症スケール」とスタンダードケアプラン

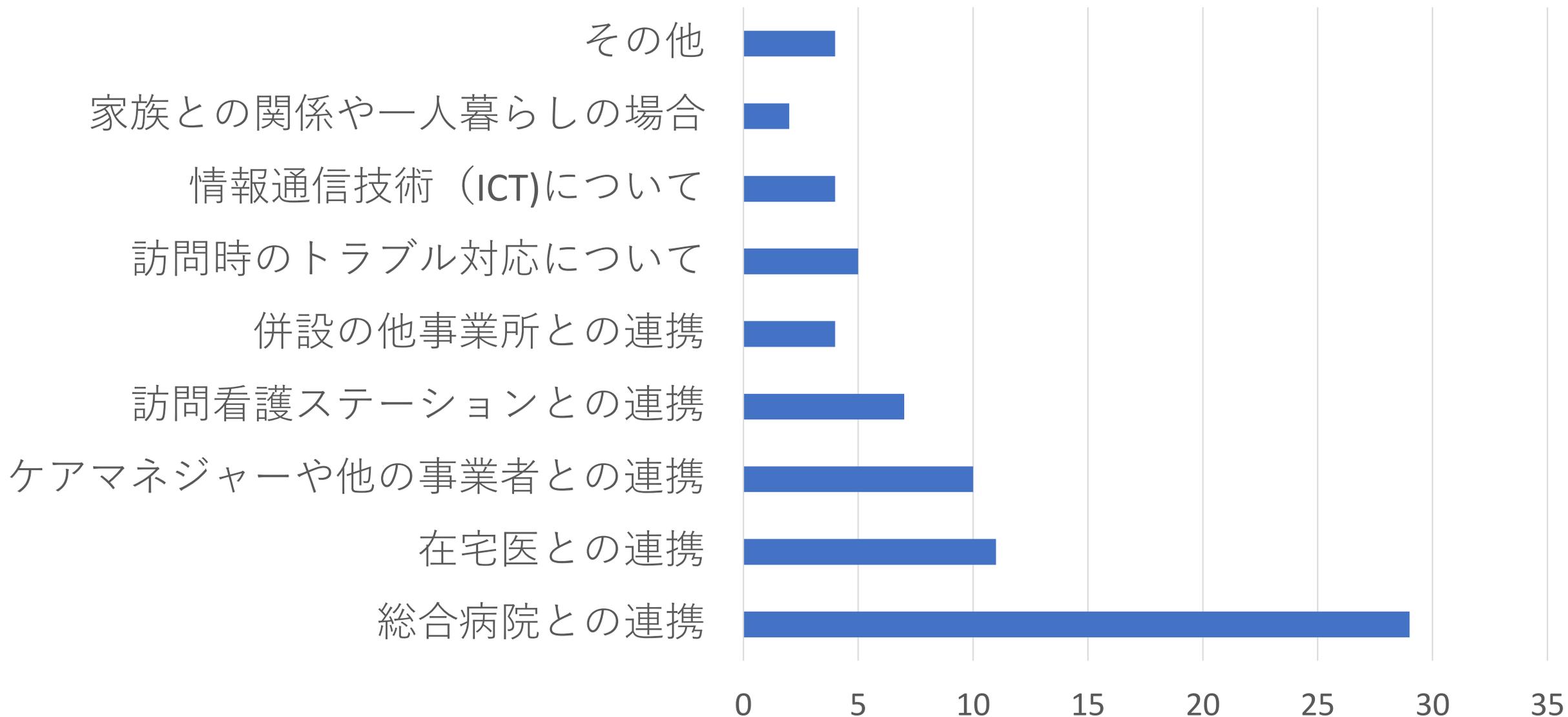
- ・参加者は22人であった。
- ・「KOMIの認知症スケール」は、認識面の31項目を評価し、点数化して5グループ（a～e）に分ける。
- ・a～eグループ別のスタンダードケアプランを参考にし、個別の訪問看護サービス計画を立案する。
- ・事例展開まではできなかったが、失われたものを追いかけるのではなく、今持てる力を活用する視点で患者・家族との関わりができればよいと考える。

3-3 スタンダードケアプラン策定の大原則



1. 失われた能力を追いかけない
2. 残された力、健康な力を活用する
3. 人間として尊厳ある生活を実現する
(縛らない、叱らない、薬漬けにしないなど)
4. 心地よいと思える刺激をふんだんに提供する
- 5 「馴染みの関係」「なじんだ暮らし」を維持する
6. 正確な観察を通して認知症特有の病状を把握し、正しいケアと治療につなげる

3-4 第4回研修会・情報交換会内容



3-4 アンケート結果（第4回研修会） 回収率85%（22人／26人）

1 参加動機		2 勉強会での目的達成度		3 勉強会の内容について		4 今後このような勉強会があれば参加しますか	
①自主的に参加	19人	①達成できた	11人	①よくわかった	19人	①参加したい	18人
②上司・同僚のすすめ	3人	②一部できた	7人	②ふつう	1人	②日程によっては参加したい	4人
③その他	0人	③どちらでもない	2人	③わかりにくかった	1人	③参加したくない	0人
		④ほとんどできなかった	1人				
		⑤できなかった	0人				

5 今回の勉強会について感想をお聞かせください

- ①グループワークで連携について、困っていることを共有できて良かった。
- ②訪問看護していく上で今後どのようにかかわっていったらよいのか参考になりました。
- ③いろんな意見交換ができて良かった。
- ④グループワークで話し合いをして、色々な連携に対することを聞くことができた。
- ⑤他のステーションの方との交流・意見交換ができて、とても参考になりました。
- ⑥他の事業所とのやり方を教えていただいて参考になりました。
- ⑦他のステーションさんがどのようにしておられるか一部わかった。
- ⑧話し合いができて良かったです。
- ⑨他のステーションさんの話を聞いて良かった。顔の見える連携につながる、期待したい。
- ⑩グループワークで、色々な事を話合えてよかった。
- ⑪他のステーションの方と話しすることで、自分たちにかけていることなどもよくわかり良かったです。
- ⑫他職種との連携と言うことで、意見交換ができて、参考になりました。まだまだ未経験の部分ばかりで、これからの部分ばかりでしたが今後のために活かしていけたらよいと思います。

6 今後行ってほしい勉強会について

- ①急な訪問での判断について
- ②訪問看護師同士の話し合う場があればよい

3-5 第5回研修会 事例検討

(ナイチンゲールKOMI理論を用いて)

- **第1ステップ** → 基本情報収集し、5つのものさしを使用しアセスメントする
- **第2ステップ** → KOMIレダーチャートを作成(生命過程判定項目)
- **第3ステップ** →
 - ① 「認識過程」は内側の31項目と「生活過程」外側の46項目で
合わせて77項目を判定し、同時にアセスメントする
 - ② 円形チャートの色塗り（マーキング）をする
 - 「黒マーク」は、自分でできる項目
 - 「白マーク」は、自分一人では「わからない・できない」
 - 「点々マーク」は、黒か白か「判別できない」項目
 - 「斜線マーク」は、「専門家の援助」が入っている項目
 - 「網線マーク」は、「身内の援助」が入っている項目

3-5 KOMIチャートを使用した事例検討

(余命1~2か月と言われた難病患者を2ヵ所の訪問看護ステーションの関わりを通して状況をアセスメントし、可視化を図る)

2019年1月

2020年1月

資料⑤]

アセスメント票 (1)

ENT直後 (1年前)

名 様

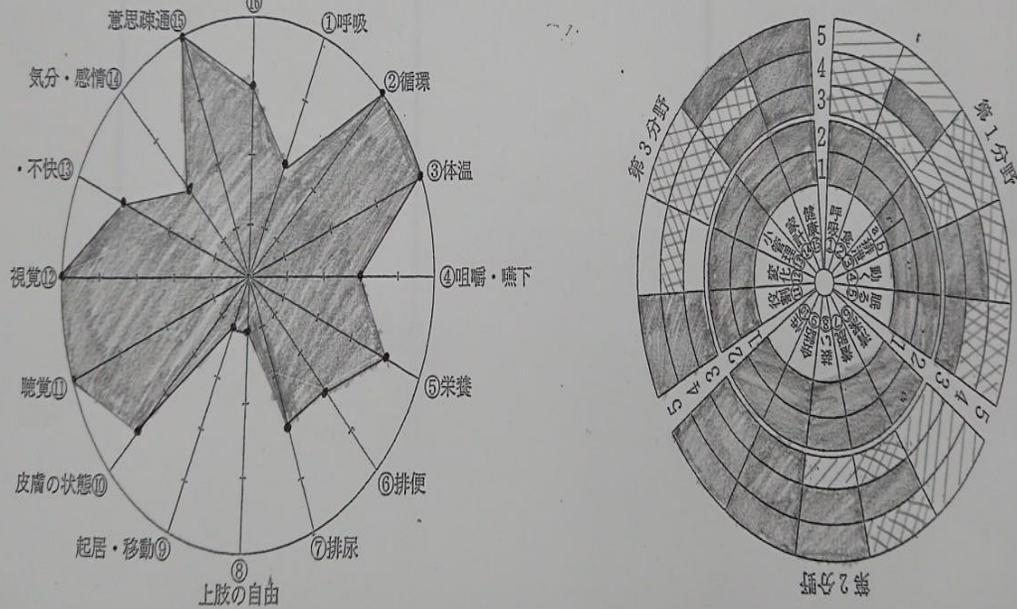
作成日 年 月 日

年齢 歳 性別

作成者

KOMIレーダーチャート
(年 月 日作成)

KOMIチャート
(年 月)



現在

資料⑤]

アセスメント票 (1)

名 様

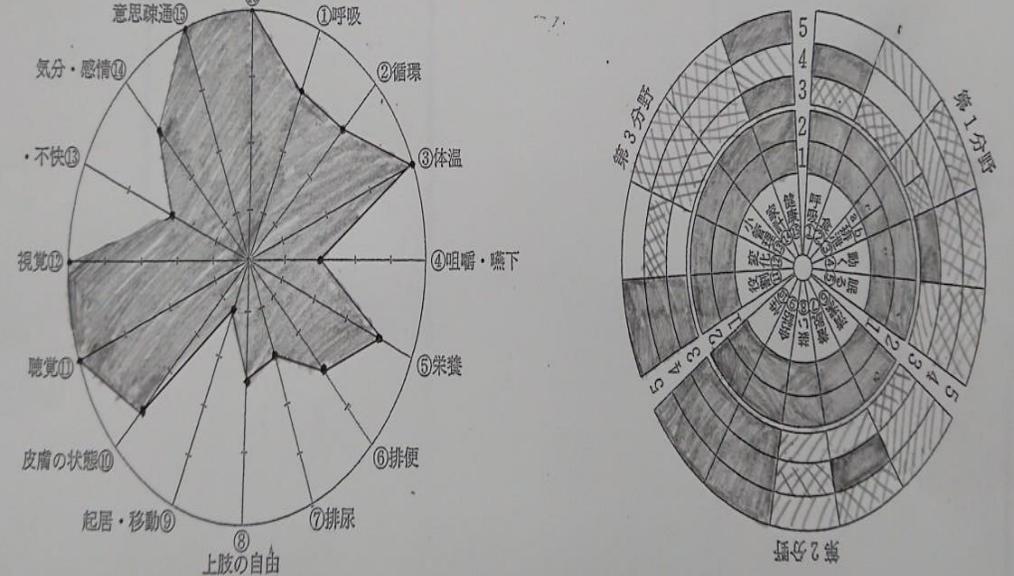
作成日 年 月 日

年齢 歳 性別

作成者

KOMIレーダーチャート
(年 月 日作成)

KOMIチャート
(年 月)



3-5 第5回 研修会 事例検討

事例の生命力・認識面・行動面のアセスメントを2ヵ所の訪問看護ステーションの担当看護師が行い、看護実践の評価を可視化した。

- ・ 認識面は「すべて問題が無い」ので、ケアを勧めるにあたり、本人の了解や納得の基で進めていくことが最も需要であることがわかる。
- ・ 生活面行動面では「会話」「性」「健康」「呼吸」「動く」「着脱」で本人の力がある。
- ・ 「KOMIのレダーチャート」から生命過程の強さが判定できる。「知的活動」「気分・感情」「視覚」「聴覚」「体温」「咀嚼・嚥下」で本人の力があり、「咀嚼・嚥下」「知的活動」では、1年前と比べ強くなっている。家での暮らしが生きる力を育てているようである。

全体考察・課題

- 高岡圏内の訪問看護ステーション25カ所で、サポート事業に何等かの形で参加したステーションが19カ所で参加率は73%であった。
- 個別相談や情報交換会は、活発に話合える場になっていおり、たくさんの意見交換ができた。またアンケートの結果からも、有意義であったと考える。
- 同行訪問は2件であった。開設間もない事業所からの申し込みであった。
- 研修会は「訪問看護の可視化を目指して」をテーマに看護理論にもとずいた看護実践を構築できるように学習した。2回以上継続して参加したステーションは9カ所と47%であった。
- 地域包括ケアシステム構築の時代、訪問看護師に対する期待が高まるなか、質の高い看護実践を支えるための人材育成環境は重要である。毎日の現場での看護実践を振り返り、評価できる実践者が求められている。
- 訪問看護師自身が看護の可視化を目指して質を高める学習を日々の活動のなかで浸透させていく必要があると考える。